



鹿児島国際大学でフィールドワーク等を経験した学生が成長する様子や地域連携事業を紹介します！

IUK 産学官地域連携ニューズレター vol.1

2020年11月10日発行

精神保健福祉交流センターと 出版会社でインタビュー調査

社会福祉学科 茶屋道拓哉准教授ゼミ生



社会福祉学科の茶屋道ゼミ3年生が、鹿児島市精神保健福祉交流センター「はーと・ぱーく」と株式会社ラグーナ出版（鹿児島市）でフィールドワークを行いました。

「はーと・ぱーく」では施設長で精神保健福祉士の町かおり氏へインタビューし、スタッフやこころの健康問題を抱える当事者の想い、さらに事業活動について伺い、自由な発想や想像力の重要性を学びました。



ラグーナ出版では、就労継続支援A型事業所として精神障害者を雇用して取り組んでいる出版事業の見学と、代表取締役社長で精神保健福祉士の川畑善博氏へのインタビューを実施。個人が持っている強みを生かすこと、「福祉」×「経営」の視点を学びました。

24時間テレビのワークショップで、 「謎解き」イベントを実施

国際文化学科 松尾弘徳准教授ゼミ生

24時間テレビ（日本テレビ系列主催）の一環としてイオンモール鹿児島で8月に行われたワークショップに、国際文化学科の日本語学ゼミ（担当 松尾准教授）の学生11名がボランティアスタッフとして参加。SDGsをテーマとした「謎解き」イベントの運営を行いました。受付を担当した吉永真代さん（国際文化3年・武岡台高校出身）は、「参加者に寄り添ったアドバイスを意識した。SDGsについても理解が深まった」と話し、松尾准教授は「コロナ禍の影響で新しい生活様式が模索される中、大学生がどのような社会貢献ができるのかを考える良い契機となったのではないかと語っています。」



南日本新聞社と「相互連携」 に関する協定を締結

南日本新聞社（佐潟隆一代表取締役社長）と本学との相互連携に関する協定の締結式が、8月に学内で行われました。



本協定は、グローバル化の進展や自然災害の甚大化など、予測のつかない状況が続く中、時代の変化や地域のニーズに対応した創造力のある人材を育成することを目的としています。

佐潟社長は、「多メディア時代にこそ、正確な情報と価値判断ができる教材を提供し、学生の育成につながるよう支援したい」と話し、大久保学長は、「学生にはインターネットからだけでなく、質の高い新聞から情報を収集し、世界的な視野で社会を見て、自分の生き方について考えてほしい」と話しました。

協定を受けて、早速、2020年12月から新聞記者を講師に迎え、「読む」「書く」「話す」の観点から、実践的な力を伝授する「コミュニケーション講座」を開講します。

施設や医療現場とつなぎ リモート実習

社会福祉学科

社会福祉学科の2～4年生が夏休みを利用し毎年行っている施設や医療現場での実習が、2020年度はコロナ禍の影響で学内で行われ、約100名の学生が参加しました。

現場での経験が積めない状況をなんとかしようと、担当教員が試行錯誤し、学内の施設等をフル活用して様々な体験を実施するとともに、施設や医療現場と教室をリモートでつなぎ、カメラを通して実際の現場の様子を見たり、外部講師から話を伺ったりしました。

